

公共施設再編計画市民ワークショップの開催結果について

1. 開催概要

(1) 開催日時

第1回 平成26年2月1日(土) 9時30分から12時00分

第2回 平成26年2月8日(土) 9時30分から12時00分

(2) 開催場所

鎌倉市役所本庁舎2階 全員協議会室

(3) 参加者(第1回、第2回ともに同じ方)

第1回 36名

第2回 20名

- ・無作為抽出により1,500名の市民の方へ案内をお送りし、申込のあった47名を参加予定者とした。

(4) 市民ワークショップの内容

第1回

公共施設再編の取組状況の報告

先進事例の紹介「発想転換の公共施設再編」(南 委員)

ワークショップ

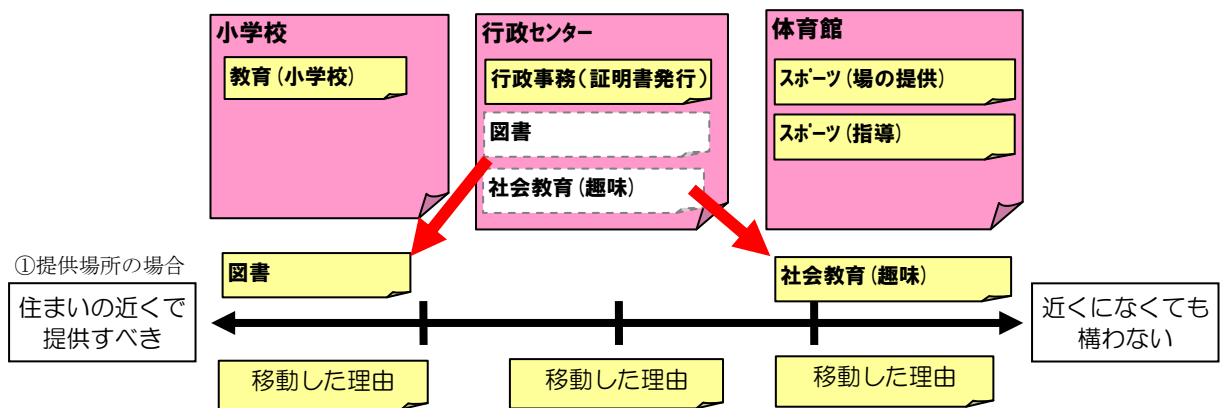
- ・6班(各6名)に分かれ、次の3つの視点で公共サービスについて意見交換

① 公共サービスの提供場所

② 公共サービスの費用負担

③ 公共サービスの市民ニーズとのズレ

公共施設の内容を、施設カードとサービスカードで表し、評価軸上のどこに、サービスが位置付けられるかを、各班で検討し、配置の理由を付箋に書いて貼ってもらう。



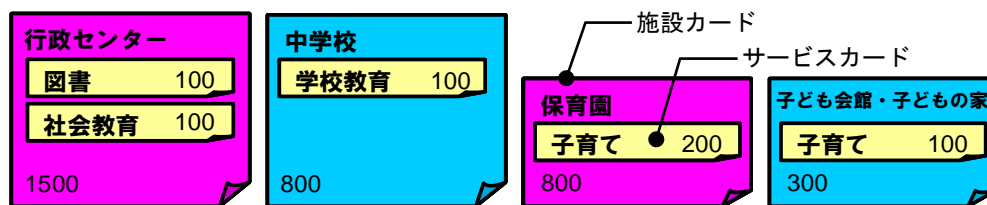
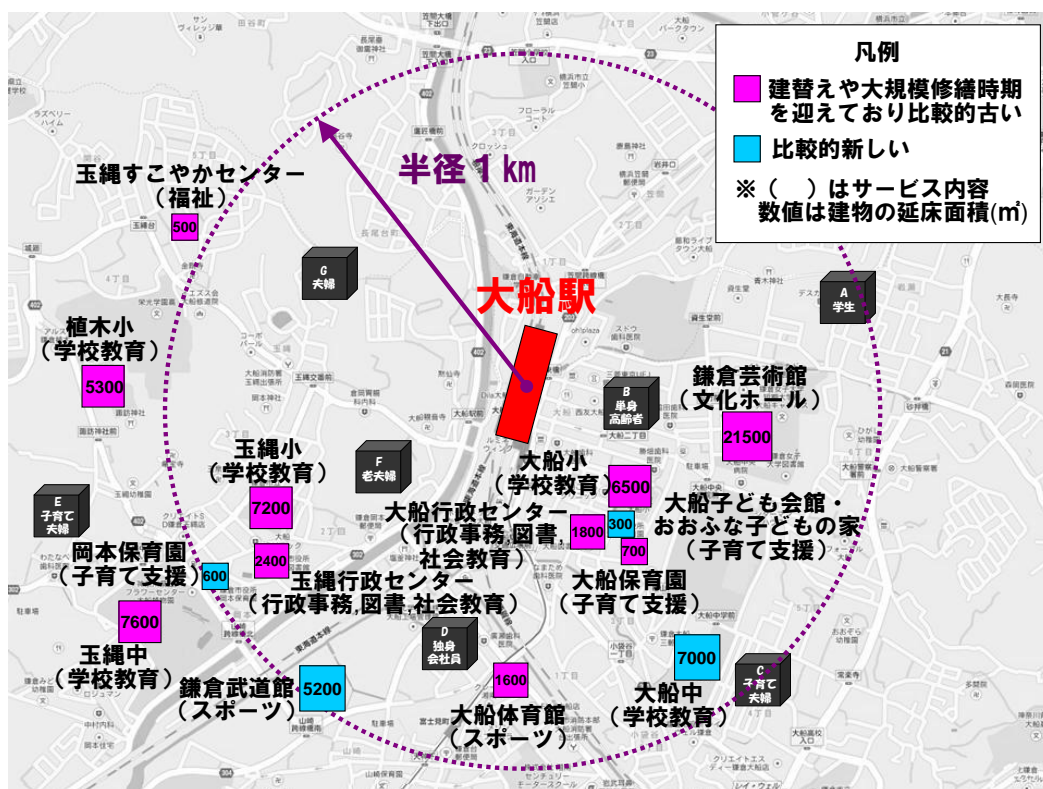
第2回

□ワークショップ

- 再編シミュレーションゲームの実施（第1回と同じ班でゲームを実施）

【ゲームのルール】

役割	割り当てられた立場（学生、独身会社員、子育て夫婦、夫婦、老夫婦、単身高齢者）で意見交換
対象地域	大船駅から半径1kmの範囲の代表的な市民利用施設を対象
設定時期	10から20年後（少子化で各校3教室分の空きが発生する想定）
検討条件	各施設のトータルコストをポイントに置き換え、全体20000ポイントを10000ポイントに削減する



※施設カードは建物の大きさと建物の古さで4種類を設定

図1 対象地域とカードのイメージ

- 発表と質疑の後、投票（自分の班以外の提案に投票するルール）により最優秀案を決定

□講評（増井 委員）

□市民ワークショップに参加した感想

● 市民ワークショップを開催しました。

市民の皆さんと、鎌倉市の公共施設の現状と課題を共有し、具体的な公共施設を想定して、どのような再編が考えられるのか、シミュレーションゲームを通じて、公共施設再編について理解を深めていただくとともに、計画策定の参考とすることを目的に、市民ワークショップを開催（2日間）しました。

プログラム概要

- 2月1日（土） 公共施設再編の取組状況の報告、先進事例の紹介、公共サービスのあり方
- 2月8日（土） 公共施設再編シミュレーションゲーム

■第1回（2月1日）：参加者36名

1. 公共施設再編の取組状況の報告

「マンガでわかる公共施設再編の取組」（平成25年10月発行）を使い、鎌倉市の公共施設再編の取組状況を報告しました。

2. 先進事例の紹介「発想転換の公共施設再編」

鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員である南学氏から、国内外の先進事例をご紹介いただき、図書館を中心に、施設と機能を切り分け、必要な機能をどの場所で提供すべきかを考えることが重要であることなどをお話いただきました。



南委員による先進事例の紹介

【紹介事例】

武蔵野プレイス		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、生涯学習センター、青年館の複合施設 ・施設はカフェを中心とした構成 ・図書館のセルフカウンターでは効率的な貸出返却が実現 ・自由に使える空間と有料のオフィス空間を設置 ・パフォーマンススタジオは利用者（青年）による自主管理
統合した小学校に町立図書館を併設した事例		<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化が進む小学校を統合化 ・統合に合わせ蔵書数5万冊の町立図書館を小学校に併設 ・文部科学省による学校への補助金を有効的に活用 ・学校の正門（児童の入口）と図書館のエントランスは別 ・学校の敷地内に100台以上の駐車場を確保
学校敷地に地域体育館を設置した事例		<ul style="list-style-type: none"> ・平日17時まで、学校体育館としての利用が最優先 ・17時以降と土日休日はスポーツクラブとして利用 ・クラブハウスには集会室や浴室など充実した設備を設置 ・NPOが指定管理者として運営（中学のクラブ活動も指導） ・2,500人の市民が会員となり、独立採算で運営
台湾・台北市の無人図書館		<ul style="list-style-type: none"> ・無人図書館として貸出機能を充実 ・地下鉄駅構内の約60坪の図書館は6時～24時まで開館 ・公園内の約200坪の図書館も無人で運営 ・ガラス張り、カード入場、監視カメラ設置等で防犯対策 ・1人の職員が、週に2、3回の巡回で返却本を再配架

※市民ワークショップの参加者は、無作為抽出により1,500名の市民の方へ案内をお送りし申しいただいた方です。（第1回、第2回ともに同じ参加者）

3. 公共サービスのあり方を考える

6つの班（各6名）に分かれて意見交換を行い、鎌倉市の公共施設について、施設（建物）とサービス（機能）を切り離し、①場所、②費用負担、③市民ニーズとのズレの3つの視点で評価しました。



1 日目の意見交換風景

【意見交換の概要】

<p>①場所</p> <p>できるだけ「<u>住まい</u>」の<u>近く</u>で提供すべき施設やサービスはどれですか？ 逆に、必ずしも<u>近く</u>になくても構わない施設やサービスはどれですか？</p>	
<p>複数の班から出た意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが利用するサービスは住まいの近く（通いやすい場所）で提供すべき 文化ホールや博物館などは、日常的な利用頻度が比較的低いため、住まいの近くでなくとも構わない
<p>特徴的な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターは、駅の近くなど便利な場所が望ましい 保育園は、保護者の通勤もあるため、なるべく利便性が高い場所が良い 高齢者福祉サービスは、送迎バスなどの環境整備も重要 図書サービスや放課後の子どもの居場所を提供するサービスは小学校の近くが望ましい
<p>②費用負担</p> <p>できるだけ利用者に負担を求めず、<u>市の税金</u>を使って提供すべき施設やサービスはどれですか？ 逆に、できるだけ利用者に負担を求めるべき施設やサービスはどれですか？</p>	
<p>複数の班から出た意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要不可欠な行政事務、学校教育、障害者福祉サービスは税金を使って提供すべき 社会教育、スポーツ、文化など、趣味で利用する、サービスを受けたい人が利用する、民間でも提供できるサービスは、利用者に負担を求めるべき
<p>特徴的な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設の管理は行政が負担し、サービスは民間で提供する方法もある 学校教育や高齢者及び障害者への福祉サービスは、利用者の負担が高くなってはいけない 学生割引などのサービスがあっても良い 図書サービスは、内容によって利用者が負担すべきサービスもある
<p>③市民ニーズとのズレ</p> <p>現在、市が提供している行政サービスの内容と、<u>市民のニーズ</u>とズレている施設やサービスはどれですか？</p>	
<p>特徴的な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校では地域性を利用したサービス提供ができるとよい（空き教室で行政窓口など） 子育てサービスは複数あるが、縦割りの弊害で施設が分かれている 子どもの遊び場が不足している スポーツ、診療サービスは民間施設でも利用できる（民間のサービスを利用したい） 高齢者福祉サービスは、中途半端な機能であると感じるため見直しが必要 保育園は、待機児童がいるためサービスの拡充や改善が必要 勤労福祉会館の役割がわからない トイレ等の設備が古く汚い

■第2回（2月8日）：参加者20名（荒天のため）

4. 公共施設再編シミュレーションゲーム

2日目は、1日目と同じ班ごとに、10～20年後の大船駅周辺の地域住民になったつもりで、適正な公共サービスを維持しつつ、老朽化した公共施設を再編していくシミュレーションゲームを実施しました。

ルールは、公共施設を施設カードとサービスカードに置き換えて、カードを移動しながら再編を検討し、トータルコストをポイントに見立てて削減する内容で行いました。



ゲームの対象地域（大船駅周辺）と公共施設の配置

【各班の再編提案の概要】

班	コンセプト	再編の考え方	主な再編提案
1	学校を活用しよう	<ul style="list-style-type: none"> 学校は適度に分散しており活用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターの統合 体育館と武道館の統合 スポーツや文化サービスは、個人の趣味なので利用料を値上げ サービスを集約化する代わりにコミュニティバスの運行
2	私も混ぜて	<ul style="list-style-type: none"> 子どもからお年寄りまで使える施設・交流する施設 自分にとって気持ちの良いまち 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館は民間施設を利用 玉縄行政センターは大船や駅ビル内を利用 学校で学童保育を実施 文化ホールは市で提供する必要は無い 市民活動で日々利用するサービスの料金の値上げは必要ない 公だけでなく民の活用
3	世代間交流と利便性	<ul style="list-style-type: none"> サービスを減らさず、老朽化した施設を減らす 	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターの統合 体育館と武道館を統合 学校の複合化 子育てサービスは駅近くに配置 スポーツや福祉の利用者負担を増やす
4	生活密着 バランスタウン 大船	<ul style="list-style-type: none"> 玉縄地域と大船地域のバランスを考慮 子育て関係をまとめる 関連サービスをまとめ、相乗効果を図る 駅よりも住まいの近くにサービス配置 趣味の活動は遠くてもOK 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に図書と子育てサービス（保育）を複合化（ただしセキュリティが重要） 社会教育（教養・趣味の講座）は遠くても利用しに行く 体育館と武道館を統合
5	ふれあいの街 大船	<ul style="list-style-type: none"> 子どもからお年寄りまでふれ合いのチャンスを増やす（見守りができる） 収益を考慮した料金設定 コンパクト化 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に子育てと福祉サービスを複合化 スポーツ、文化、社会教育サービスは、料金を見直す（学割、10回以上の利用で安くする等） ふれあいセンターの設置
6	鎌倉に自信を取り戻す！	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターを核に機能拡充(機能統合) 子どもとお年寄りにやさしい、高齢者に配慮したサービス 図書館（蔵書）を駅近くに集中 無駄を減らす（跡地等の有効活用） ネーミングライツで財源確保 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者向けサービス拠点の設置 学校体育館の一般利用 行政センターで子育て支援（放課後児童の居場所） 小学校に保育園



2日目の意見交換風景



参加者による投票で最優秀案に選ばれた提案

【成果発表と総評】

各班に提案内容を発表していただいた後、参加者による投票形式で最優秀案を選びました。

また、鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員である増井玲子氏から次のような総評をいただきました。

- 公共施設の再編により施設が減ったとしても、サービスのあり方や利用方法を見直すことによって、機能性の向上や新たな効果が期待できる。それらが議論されていた。
- ゲームでは資産売却、利用者負担を考えたが、参加者からネーミングライツ、IT化などの手法提案もあったように、様々な工夫が考えられる。たくさんの提案があり有意義であった。
- 今回は、大船駅周辺という限られた範囲でのシミュレーションだったが、各班でコンセプトや再編の考え方が異なったように、1つの答えを導き出すことは難しい。
- 公共施設再編の取組は鎌倉市全体や隣接する自治体との連携も考えていくことが重要である。



発表（上）と増井委員による総評（下）

【参加者からのご意見と感想】

最後に、参加者から、以下のようなご意見やご感想をいただきました。

- 公共施設再編においては、鎌倉市のまちづくりの理念も重要である
- ワークショップを通じて、今後、鎌倉市の公共施設がどのように変わっていくのか興味が湧いた
- 子どもの視点で見ると、自分達が提案したものとは違った方向になるかもしれない
- 民間活用や売却等の収益性を高める考えも必要
- 公共施設の理解を深めてから改めて考えたい

3. 公共施設再編市民ワークショップ参加者アンケート 集計結果

(平成 26 年 2 月 8 日ご出席の 20 名の方の回答)

① 市民ワークショップへの参加の動機

1 市の広報やホームページなどを見て、以前から公共施設の再編に興味があったから	1 人 (5%)
2 市民ワークショップの案内チラシを見て興味を持ったから	11 人 (55%)
3 その他*	7 人 (35%)

※その他回答：案内がきたから、鎌倉市の行政そのものに関心があったから 等
無回答 1 人

② 市民ワークショップの内容

第 1 回 (2/1)	「公共施設再編の取組状況の報告」 は理解できましたか	【主なコメント】 ・ 財政不足の為には必要である。 ・ 計画性不足だった。 ・ 数字、グラフなどで表現されていて理解しやすかった。 ・ 鎌倉市の現状が少し理解できた。	
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1
13 人 (65%)	7 人 (35%)	0 人	0 人
第 1 回 (2/1)	「発想転換の公共施設再編」 (南学 氏) は理解できましたか	【主なコメント】 ・ 図書館をただ本を貸し借りをする施設ではなく、人とのふれあいであったり、食事の出来る施設に変えるのは面白いと思った。 ・ 写真があって分かりやすかった。鎌倉にも図書館と集会室、カフェの複合施設がほしいと思った。 ・ 他の地域の取組など聞いて大変参考になった。 ・ 考え方が変わった。目からうろこだった。	
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1
15 人 (75%)	5 人 (25%)	0 人	0 人
第 1 回 (2/1)	ワークショップ (公共サービスの評価) の内容は理解できましたか	【主なコメント】 ・ それぞれの立場によって評価も様々だと感じた。 ・ 時間がなくてじっくり検討ができなかった。 ・ 何がムダなのかを考える機会になった。	
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1
13 人 (65%)	6 人 (30%)	1 人 (5%)	0 人
第 2 回 (2/8)	ワークショップ (公共施設再編シミュレーション) の内容は理解できましたか	【主なコメント】 ・ すんなりゲームに入れた。 ・ 人口分布や利用率等のデータがなかったので、イメージだけで検討してしまった。 ・ どの地域に何が必要なのかを考える機会になった。 ・ 学校教育にも使えるかも。	
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1
15 人 (75%)	4 人 (20%)	1 人 (5%)	0 人
全 体	ワークショップに参加して良かったですか	【理由】 ・ 他の班の発表をきくことで、自分では考えもつかなかった意見などがあり参考になった。 ・ いろいろな方の意見が聞いて勉強になった。 ・ 皆さんと意見を交えながら、市の将来について考えられる事が素晴らしい。 ・ これからの公共施設の運営を見守る意識ができた。 ・ 知らなかった事がわかった。	
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1
17 人 (85%)	2 人 (10%)	1 人 (5%)	0 人

全 体	ワークショップに参加して公共施設 に対する認識は変わりましたか				【変わった点】
	はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1	
12人 (60%)	5人 (25%)	2人 (10%)	1人 (5%)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 当たりまえにずっとあるものと思っていたが、そうではないのだと認識した。 ・ コスト的な無駄を省くという点では変わらないが、「サービスは増やすことすらあれ、減らせない」と思った。 ・ 自分にも降りかかってくる問題なので、まじめに考えなくてはと思った。 ・ 現状を見つめ直すいい機会になった。 ・ 利用しやすくするには、子供と大人が関わりやすくする。 ・ 鎌倉市にある公共施設を知らなかったのがわかった。

③ 再編シミュレーションでわかりづらかった点、やりにくかった点

<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅近の設備の整理は難しい。 ・ 今日は3人だったので意見がまとまり易かったが、6～7人いたら時間が足りないと思う。 ・ 各施設の利用状況についてももう少し理解を深めてから参加したかった。 ・ 市としてどこまで減らして行くのか見通しを知りたかった。 ・ 再編シミュレーションは各班の議論に基づいて考えたものなので、優劣をつけるものではないと思う。2日間にわたって考えたものに点数をつけられるのは悲しい。参加して考えたということを評価してほしい。 ・ 市のサービス目標の説明があると良い。ワークショップの結果をどう利用するのか。 ・ 行政サービス（住民票など）に関するカードがあると良かった。新しい施設の提案ができると思えば幅が広がると思った。 ・ 少しコンサルの考え方に沿ったシミュレーションに偏っていた感じがした。議論はいろいろな意見が出ておもしろかった。 ・ 時間が足りない。もう少し問題点を具体的に示してもらえれば良い。 ・ 「近くになくてよい」が、家に対してか、駅に対してか、それ以外にか、わかりにくかった。 ・ ゲームはやや複雑。検討の時間が短かった。
--

④ その他公共施設再編の取組について

<p>【公共施設再編に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民営ショップとの協力を考えよう。 ・ もっと民間活力を使ったほうが良いと思う。 ・ 鎌倉行う事、県で行う事、国で行う事を明確にする事で再編が考えやすくなるのでは。 ・ 「市の施設、サービス」を、民間の施設や団体・人にある程度移す（例：大船駅前の仲通りを高層化せず、現状を快適に変えて、その中に市のしていたサービス等を移す）。 ・ 売却した土地などに、低額（割安）で泊まれる宿泊施設や皆が集える、例えば温泉など（利用料を取る）を作り、市民が生き生きと楽しく過ごせるという事を大事にすることが重要と考える。 ・ サービスとは際限のないものとの前提に、優先順位を決めて施設造りをやってほしい。 ・ チマチマした考え方だけでなく、大英断も必要と考える。 ・ ムダをはぶき、収益を考えなくてはいけない時に来ていると思う。 unnecessaryな箱物が多いように思う。 ・ 支所機能を核とすれば様々な施設を集約できると思う。 ・ 人との意見交流の中から色々の取組が出てくると思う。 ・ 特定の人しか使っていない施設は見直した方がよい。 →空地になったら売却。又は主要施設やホールに”ネーミングライツ”を導入したらよい。 （市の財政からみると新たな収入がないと再編自体がムリだと思うので） →その際、公募する企業は、公共的なもの（例えば、江ノ電、京急、湘南モノレールなど）がよい。
--

【ワークショップに関すること】

- ・ これからも続けてほしい。
- ・ 利用状況・収支バランス等のデータが少ないので判断できないサービスが多い。もっとデータを。
- ・ 再編を検討した地域で、レイ・ウェルが除外されていた。入っているともう少し良案となったと思う。
- ・ もう少し広い範囲での討議がしたかった。
- ・ 参加者には事前に配布資料を送付すべき（作業の進み具合がはかどる）。
- ・ TQC の知識が必要であり、この時間の割り振りではまとめるには少々無理でないか。
- ・ 大雪の為、出席者が少ない。事前に連絡すべき。
- ・ 実際にどのように再編計画が市から出てくるのか、楽しみになった。今回の参加者向けの報告会のよ
うなものがあつたらよいと思った。